



今月のテーマ 「離床」行動を検知する、離床センサーのご紹介

前回 133 号「患者の行動に合わせた、離床センサーの選定 2021」の中で紹介しました、【離床】行動を検知するセンサーを特集いたします。

離床(早期)	離床	長座位	端座位	立位	歩行(離室)	歩行(離棟)
ピローコール	ベッドコール	タッチコール	サイドコール	コールマット	ドアコール	廊下ナビ
超音波・赤外線コール	ピローコール	ベッドコール	タッチコール	サイドコール	コールマット	超音波・赤外線コール
超音波・赤外線コール	ピローコール	ベッドコール	タッチコール	サイドコール	コールマット	超音波・赤外線コール

離床(早期) < 離床

手術後、**安静が必要な**患者を対象としたセンサー

転倒する危険度が高い患者を対象としたセンサー

患者の ADL に合わせた設置ができるセンサー

ピローコール



頭を枕から上げるとお知らせ

- ・センサーをまくらの下に設置
- ・動作遅延時間の調整が可能(0.5、1.5、3 秒)

特長

絶対安静の患者

主に手術後の患者に有効なのね!

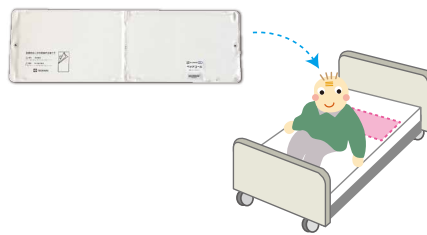


対象

- × 寝返りが多い方
- × 少しの動きでは報知したくない時

不向き

ベッドコール



上体を起こすとお知らせ

- ・厚みがたったの 6mm
- ・動作遅延時間の調整が可能(0.5、1.5、3 秒)
- ・マットレスの上にセンサーを設置、上からシーツを被せるので患者に気づかれにくい

※詳しくは教えて相談室 129 号をご覧ください!

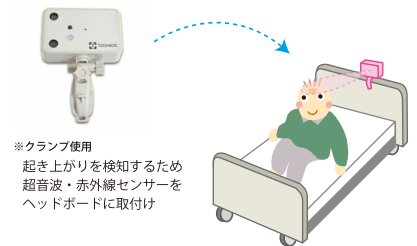
転倒の危険性が高い患者
起き上がると転落の可能性が高い患者
動きが早い患者

一番早く動きを検知できるセンサー!



- △ 体重が 30kg 台の方
- × 体圧分散マットレス
- × エアマット

超音波・赤外線コール



※クランプ使用
起き上がりを検知するため超音波・赤外線センサーをヘッドボードに取付け

センサーの検出範囲に入るとお知らせ

- ・ AC アダプタ・電池両用可能
- ・ 赤色ビームで検知方向を確認できます
- ・ 検知距離設定で(0.5、1、1.5m)設定可能
- ・ 取付け方法は 3 種類!

※詳しくはテクノス通信 97 号をご覧ください!

ベッドコールとマットレスの相性が悪く設置できない場合
ADL が変化する患者

患者の動きを見て設置する位置を決めるのね



- × ギャッジアップの状態で日中過ごされる方
- × 寝返りが大きい方、体動が激しい方

頭部の手術後、絶対安静の患者の動きを知るために使用しています!

A 病院 脳神経外科



一人で歩くと転倒の危険性が高い患者に使用しています!

B 病院 内科



ベッドセンサーを使用していたが、マットレスが柔らかいので、超音波・赤外線センサーを使用しています!

C 病院 内科

